

ディーセント ワークを 復習しよう!



連合の取り組み①

「権利が保障される仕事」のために

- 安心して働き続けられるための**労働者保護ルール**の堅持・強化
- 労働者の健康・安全の確保のための**労働時間の見直し**
- 雇用における**男女平等と女性活躍の推進**
- **ワーク・ライフ・バランス社会**の早期実現

連合の取り組み②

「十分な収入を生み出す仕事」のために

- 適正な水準への**最低賃金の早期引き上げ**と**監督行政の強化**
- **格差・貧困の解消**に向けた政策の推進

連合の取り組み③

「適切な社会的保護が あたえられる仕事」のために

- 持続可能な**社会保障改革の推進**
- 失業から良質な雇用に早期復帰・移行ができる**セーフティネットの構築および拡充**
- 『全世代支援型』**社会保障制度**のさらなる推進

「ディーセント・ワーク」とは、国際労働機関(ILO)のファン・ソマビア元事務局長が1999年に、ILOの理念・活動目標として示し、ILOの活動の主目標と位置づけられました。日本語では、「働きがいのある人間らしい仕事」と訳し、連合も目標達成に向けて全力で取り組んでいます。今回は連合の取り組みについて解説します。



ディーセント・ワークを 実現するための 連合の取り組みは 4つ!

連合の取り組み④

「十分な仕事があること」のために

- 若年者、高齢者、障がい者の**雇用対策の強化**
- ディーセント・ワークを中心に据えた**雇用の拡大と雇用の質の回復**
- 非正規雇用労働者の**雇用安定化や処遇改善の強化**



(監修: 総合国際局)

世界では...

「働く」の実態...

7.7億人が1日1.9ドル(約200円)以下で生活
これで自分と家族の生活を
守らなくてはなりません。



失業者は約2億人。
うち7,100万人は15~24歳の若者
失業者の多くを若年層が占めています。



子どもの10人に1人が
児童労働に従事
1億5,200万人の子どもたちが
学校に行けず働いています。



業務上の事故や病気による
死亡者は毎年230万人
1日約6,400人の労働者が
仕事で命を奪われています。



欧米やアジアでも
非正規労働者が急増
日本では労働者人口の約4割が
非正規労働者です。



グローバルな取り組み

ディーセント・ワークという言葉や概念は、世界の首脳がグローバルな課題について討議するG20やG7などの首脳宣言で言及されているだけでなく、2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)のゴール8にもディーセント・ワークの促進がうたわれています。ITUCはSDGs達成のために労働組合ができることとして、使用者や国との社会対話を行うことや、国連の会議でも取り上げるよう働きかけることなどを挙げています。

＜詳しい説明はこちら(英文)＞



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	8 働きがいも経済成長も
4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	
11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう

ゴール8の目標はディーセント・ワークの促進

ディーセント・ワークの実現で 働きがいのある人間らしい仕事を!



連合大会でも実施

国際労働組合総連合(ITUC)は、ディーセント・ワークの実現のため世界一斉行動の実施を呼びかけているんだ!



このページは連合HPでも配信中!
機関紙等にご活用ください。

「働くことを軸とする安心 社会」実現のため、連合はディーセント・ワークをめざします!